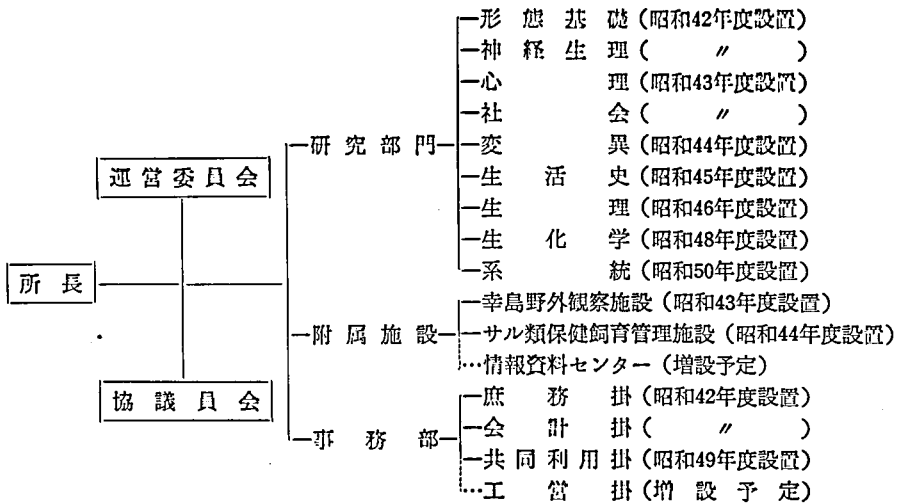


I 研究所の概要

1. 組織 (昭和51年3月30日現在)



所 長 近 藤 四 郎

運営委員 (50音順)

伊 谷 純 一 郎 (京大・理)
 糸 魚 川 直 祐 (阪大・人科)
 今 西 錦 司
 岩 本 光 雄 (霊長研)
 伊 沢 紘 生 (日本モンキーセンター)
 大 沢 濟 (霊長研)
 河 合 雅 雄 (霊長研)
 久 保 田 競 (霊長研)
 四 手 井 綱 英
 宮 地 伝 三 郎 (日本モンキーセンター)
 水 原 洋 城 (東京農工大)
 本 吉 良 治 (京大・文)
 渡 辺 直 経 (東大・理)

事 務 長 北 川 治 康

現 員 (昭和51年3月30日現在)

年度	教 授	助 教 授	助 手	小 計	一 職 員	非 常 勤 員	小 計	合 計
昭和50年度	9	8	22	39	29	12	41	80

大学院学生および研修員 (昭和51年3月30日現在)

年度	博士課程	修士課程	研 修 員	合 計
昭和50年度	7	4	8	19

2. 予 算 概 況

昭和50年度経費（項）研究所

経 常 経 費		共同利用施設 運 営 費	計	科学研究費	合 計
人 件 費	物 件 費				
千円 184,085	千円 108,083	千円 53,586	千円 345,754	千円 48,320	千円 394,074

科 学 研 究 費

年 度 ・ 種 別	研 究 課 題	研究代表者	補助金額
(昭和50年度)			
特 定 研 究 (I)	中枢神経系の出力制御機序の研究	久 保 田 競	千円 17,300
〃 (I)	霊長類の実験動物化に関する研究	千 葉 敏 郎	7,700
一 般 研 究 (A)	行動の機能的等価性に関する実験的研究	室 伏 靖 子	7,100
〃 (C)	ニホンザル自然社会の人口学的研究	杉 山 幸 丸	1,100
〃 (C)	霊長類の二足歩行の生機・構学的モデル化に関する基礎研究	近 藤 四 郎	950
〃 (D)	北海道香深井遺跡出土のオットセイ骨格によるオホーツク文化人の狩猟活動の復元に関する研究	和 田 一 雄	300
〃 (D)	地域利用からみたニホンザル複数群の社会的生態学的研究	鈴 木 晃	180
奨 励 研 究 (A)	前運動野冷却による運動症状及び運動野神経細胞に対する影響について	酒 井 正 樹	270
〃 (A)	色の短期記憶に関連するサル下部側頭回ニューロン活動の研究	三 上 章 允	270
〃 (A)	白山山村村落の自然環境と生計活動についての生態人類学的研究	田 中 二 郎	250
海外学術調査(調査総括)	東南アジアにおける霊長類の比較社会学的研究に関する調査総括	川 村 俊 蔵	3,000
〃 (現地調査)	エチオピアにおけるヒヒ類の種間関係、とくに種間雑種についての比較研究	河 合 雅 雄	9,900
合 計	1 2 件		48,320

3. 研究設備 (50年度新設分)

形態基礎研究部門

動歪増幅器（ローパスフィルターつき、共和電業DPM-110A）、2素子直流増幅器（三栄測器 6L5）。

心理研究部門

PDP8 付属カセット装置（DEC 社製 TU60）
ディジタルレコーダー（タケダ理研製-TR-6199）

シンクロスコープ（岩崎通信機製 SS 5100）

生活史研究部門

オープンデンスケ（SONY、TC-5550-2）、双眼鏡（Zeiss、Dialyt 10×40 B）、8 mm PROJECTOR（エルモ、SP Deluxe）。

生理研究部門

オリンパス顕微鏡 BHB-111 型。

生化学研究部門

クライオクール (米 NESLAB社製)。

系統研究部門

双眼実体顕微鏡 (写真・描写装置つき, ウイルドM7), 双眼実体顕微鏡 (オリンパス), 万能投映機 (オリンパス), 冷凍庫 (レブコ), 化石人骨模型 (ウェンナー・グレン財団, 約70点), 第三紀食虫類, 原猿類およびゲッサイ類の標本 (おもに北アメリカ産, 約1,000点)。

幸島野外観察施設

緊急連絡装置一式 (明星電機製), ヤマハ船外機 (20A, 20馬力)。

サル類保健飼育管理施設

大型回転マイクローム (ライツ社製, 1510型), 電気泳動用定電圧定電流電源 (エムエス機器, 30SR型), 眼底撮影装置 (コーワRC2型), 内視鏡セット (オリンパス製), 行動観察用テレビ監視装置, 赤外線投光機 (ユニテック電子, N-102)。

4. 図書・資料

第1表に, 42-49年度と50年度の書籍 (雑誌をのぞく) の購入状態を部門別に示した。蔵書冊数は, 昭和50年度末には, 和書 1,461 冊, 洋書 2,667 冊になった。なおこれまでに図書室が購入した“共通”の書籍 (和洋書228冊) は, 地図・辞書類など霊長類研究の全般にわたる内容を持ったものであるが, まだ不充分であることは否めない。

第2表aに年度別の和洋雑誌数を, bには昭和50年度の部門別購読雑誌数を示した。この表からわかるように, 50年度末現在購読中の和雑誌及び中国雑誌は合計16種, 洋雑誌は97種である。この他, 朝日新聞社からペット百科, 日本モンキーセンターから *Primates* の寄贈を受けている。

第3表にこれらの雑誌のリストと購読部門名, 刊行区分, 所蔵巻, 年号 (+印は継続購入中) を記した。なお, 洋雑誌のリストには1976年度から購読しはじめた4種の雑誌も含まれている。(小山直樹)

第1表 部門別蔵書冊数
和書 洋書

部 門	年 度	和 書			洋 書		
		42-49	50	計	42-49	50	計
形態基礎		52	0	52	49	6	55
神経生理		16	0	16	105	0	105
心理生理		6	0	6	213	5	218
社会		36	0	36	113	0	113
変異		12	0	12	36	1	37
生活史		17	11	28	114	3	117
生理		29	0	29	28	6	34
生化学		0	0	0	4	2	6
サル施設		45	4	49	56	0	56
幸島施設		3	2	5	9	6	15
事務室		7	35	42	0	1	1
中央		74	0	74	77	0	77
研究林		72	4	76	0	0	0
科学研究費購入		1	0	1	14	0	14
図書室		79	37	116	90	22	112
大学院 ¹⁾		0	14	14	0	10	10
寄贈		30	20	50	27	9	36
製本雑誌 ²⁾		28	35	63	941	229	1,170
吉場文庫 ³⁾		46		46	61		61
徳田文庫		598		598	219		219
長谷部文庫		148		148	211		211
計		1,299	162	1,461	2,367	300	2,667

1) 49年以前は, 図書室の蔵書に含まれる。

2) 管理換を含む。

3) 吉場文庫は全て寄贈の欄に記されるべきものであるが, ここでは別扱いとした。

第2表 a. 年度別和洋雑誌数

年度	和雑誌	洋雑誌
44	4	47 + 1
45	4	58 + 1
46	13 + 1	63 + 1
47	14 + 1	75 + 1
48	19 + 1	83 + 1
49	18 + 1	101 + 1
50	16 + 1	97 + 1

1) +1 は寄贈。

2) 42, 43年度については、資料が欠落している。

3) 中国雑誌は図書分類上、和雑誌にカテゴライズされている。

第2表 b. 50年度の部門別購読雑誌数

部門	和雑誌	洋雑誌
形態基礎	0	12
神経生理	1	9
心理	0	22
社会	0	5
変異	5	3
生活史	0	10
生理	3	10
生化学	0	13
系統	0	2
サル施設	2	5
幸島施設	0	1
図書室	5	5
寄贈	1	1
計	17	98

1) 変異部門の和雑誌はすべて中国雑誌。

第3表 a. 和雑誌及び中国雑誌リスト

和雑誌	刊行区分 ¹⁾	所蔵巻(年号) ²⁾
科学図書室	M	[38(1968)]+
科学朝日	"	M [28(1968)]+
自然	"	M [23(1968)]+
出版ニュース	"	3/M [1969]+
学術月報	"	M [21(1969)]+
バイオテク		[4(1973)]
脳と神経 神生	M	24(1972)+
神経研究の進歩	BM	16(1972)—19(1975)
ホルモンと臨床 生理	M	[19(1971)]+
医学と生物学	"	M 82(1971)+
日本医事新報	W	[1971—73]
最新医学	M	26(1971)—30(1975)
産婦人科の世界	M	23(1971)—25(1972)
産科と婦人科	M	38(1971)—39(1972)
蛋白質・核酸・酵素 生理	M	19(1974)—[21(1974)]
臨床検査 サル施	M+1	[15(1971)]+
日本獣医師会雑誌	"	M 26(1973)+
週刊ベツト百科	W	1(1975)—48(1975)
世界動物百科		1(1971)—192(1974)
モンキー		1(1957)+
中国雑誌		
古脊椎動物与古人類 変異	2N	11(1973)+
考古学報	"	2N (1973)+
植物学報	"	Q 15(1973)+
動物学報	"	Q 19(1973)+
地質科学	"	Q (1973)+

第3表 b. 洋雑誌リスト

雑誌名	購読部門	刊行区分 ¹⁾	所蔵巻(年号) ²⁾
Abstracts & Reviews in Behavioral Biology (Formerly Communications in Behavioral Biology. Pt. B).		M	11(1973)—[14(1974)]
Acta Endocrinologica.		M	75(1974)—80(1975)
Acta Physiologica Scandinavica.	神生	M	78(1970)+
Acta Neurobiologiae Experimentalis.	神生	BM	32(1972)+
Advances in Enzymology.	生化	SA	40(1974)+
Advances in Protein Chemistry.	生化	A	28(1974)+
American Anthropologist.	変異	Q	70(1968)+
American Journal of Anatomy.	サル施	M	139(1974)+
American Journal of Human Genetics.	変異	BM	20(1968)+

American Journal of Obstetrics and Gynecology.	生理	SM	110(1971)+
American Journal of Physical Anthropology.	形態	BM	28(1968)+
American Journal of Physical Medicine.	形態	BM	50(1971)+
American Journal of Physiology.	生理	M	222(1972)+
American Naturalist.	生活史	BM	106(1972)+
American Psychologist.	心理	M	29(1974)+
Analytical Biochemistry.	生化	M	57(1974)+
Anatomical Record.	形態	M	166(1970)+
Anatomischer Anzeiger.	形態	10N	126(1970)+
Animal Behavior.	心理	Q	17(1969)+
Animal Learning & Behavior.	心理	Q	1(1973)+
Annual Review of Biochemistry.	生化	A	43(1974)+
Annual Review of Physiology.		A	26(1964)—27(1965)
Annual Review of Psychology.	心理	A	16(1965)+
Anthropologie.		Q	72(1968)—74(1970)
Anthropologischer Anzeiger.	形態	Q	31(1968)+
Anthropological Quarterly.	生活史	Q	41(1968)+
Archives Italiennes de Biologie.		Q	106(1968)—113(1975)
Archives Suisses d'Anthropologie Generale.			32(1967)—35(1971), 37(1974)
Australian Journal of Zoology.	社会	4N	22(1974)+
Behaviour.	心理	16N	33(1969)+
Behavior Research Methods and Instrumentation.	心理	BM	1(1968)+
Behavioral Biology (Formerly Communications in Behavioral Biology. Pt. A).	図書室	M	7(1972)—[8]+
Behavioral Ecology and Sociobiology.	生活史	8N	1(1976)+
Behavioral Science.	心理	BM	10(1965)+
Bibliography of Reproduction.		M	17(1971)—26(1975)
Biochemistry.	生化	BW	13(1974)+
Biochemical & Biophysical Research Communications.	生化	SM	56(1974)+
Biochimica et Biophysica Acta (Protein Structure).	生化	12N	P 30(1974)+
Biology of the Neonate.	生化	M	26(1975)+
Brain, Behavior and Evolution.	心理	BM	1(1968)+
Brain Research.	神生	W	1(1966)+
Bulletins et Memoires de la Societe d'Anthropologie de Psris.		Q	3(1968)—6(1970)
Bulletin of Psychonomic Society.	心理	M	1(1973)+
Canadian Journal of Psychology.	心理	Q	19(1965)+
Communications in Behavioral Biology.		M	2(1968)—[9]
Conditional Reflex.		Q	4(1969)—6(1971)
Cortex.		Q	9(1973)—11(1975)
Current Anthropology.	生活史	4N	(1960)+
Current Contents: Behavioral, Social & Educational Sciences.		W	1(1969)—5(1973)
Current Contents: Life Sciences.	生化	W	12(1969)—16(1973), 19(1976)+
Developmental Psychology.	心理	BM	1(1969)+
Ecological Monographs.	社会	Q	40(1970)+
Electroencephalography and Clinical Neurophysiology.	神生	M	1(1949)+
Electromyography and Clinical Neurophysiology.	形態	BM	12(1971)+

Endocrinology.	生理	M	90(1972)+
Evolution.	系統	Q	30(1976)+
Excerpta Medica. Sect. 1		M	22(1968)—24(1970)
Excerpta Medica. Sect. 10		M	24(1971)—25(1972)
Experimental Brain Research.	神生	3Bd	1(1966)+
Experimental Neurology.	神生	M	1(1959)+
Federation Proceedings.		M	32(1973)—34(1975)
Fertility and Sterility.	生理	M	23(1972)+
Folia Primatologica.	{圖書室 幸島	8N	8(1968)+
Hormones and Behavior.	生理	Q	2(1971)+
Human Biology.	形態	Q	40(1968)+
Human Ecology.	生活史	Q	2(1974)+
Journal of the American Veterinary Medical Association.		SM	160(1972)—163(1973)
Journal of Animal Ecology.	生活史	3N	39(1970)+
Journal of Anthropological Research (Formerly Southwestern Journal of Anthropology).	生活史	Q	29(1973)+
Journal of Applied Physiology.	生理	M	32(1972)+
Journal of Biological Chemistry.	生化	SM	249(1974)+
Journal of Biomechanics.	形態	BM	7(1974)+
Journal of Bone and Joint Surgery. (American Volume)	形態	8N	52A(1970)+
Journal of Bone and Joint Surgery. (British Volume)	形態	4N	52B(1970)+
Journal of Comparative Neurology.	神生	SM	144(1972)+
Journal of Comparative and Physiological Psychology.	心理	M	59(1965)+
Journal of Ecology.	生活史	3N	58(1970)+
Journal of Endocrinology.		M	49(1971)—67(1975)
Journal of the Experimental Analysis of Behavior.	心理	BM	1(1958)+
Journal of Experimental Psychology.	心理	M	79(1969)+
Journal of Human Evolution.	形態	BM	1(1972)+
Journal of Mammalogy.	変異	Q	52(1971)+
Journal of Medical Primatology.	生理	BM	1(1972)+
Journal of Molecular Evolution.	生化	4N	4(1974)+
Journal of Neurochemistry.	生化	M	22(1974)+
Journal of Neurophysiology.		BM	31(1968)—38(1975)
Journal of Physiology.		SM	156(1961)—253(1975)
Journal of Reproduction and Fertility.	サル施	BM	32(1973)+
Journal of Wildlife Management, (With Monograph and Bulletin.).	社会	Q	33(1969)+
Laboratory Animals.	サル施	Q	1(1967)+
Laboratory Animal Science.	サル施	BM	20(1970)+
Life Sciences. Pt. I: Physiology and Pharmacology.		SM	11(1972)—12(1973)
Man: Journal of Royal Anthropological Institute.	生活史	Q	3(1968)+
Memory & Cognition.	心理	Q	1(1973)+
Nature.	圖書室	W	217(1968)+
Neuroendocrinology.	生理	M	7(1971)+
Neuropsychologia.	神生	Q	1(1963)+
Нейрофизиология.		6N	[2(1970)]—7(1975)
Oikos: Acta Oecologica Scandinavica.	社会	3N	25(1974)+

Oryx: Journal of the Fauna Preservation Society.
 Proceedings of the National Academy of Sciences.
 Perception and Psychophysics.
 Perceptual and Motor Skills.
 Prostaglandins.
 Physiology and Behavior.
 Physiological Reviews.
 Physiological Zoölogy
 Physiological Psychology.
 Primates: Journal of Primatology.
 Psychological Abstracts.
 Psychological Bulletin.
 Psychological Review.
 Psychonomic Science.
 Science.
 Scientific American.
 Southwestern Journal of Anthropology.
 Soviet Anthropology and Archaeology.
 Soviet Psychology.
 Systematic Zoolgy.
 Terre et la Vie
 Zeitschrift für Morphologie und Anthropologie.
 Zeitschrift für Versuchstierkunde.

社会	3N	12(1973)+
生化	M	73(1974)+
心理	M	19(1976)+
心理	BM	28(1969)+
生理	M	1(1972)+
心理	M	1(1967)+
神生	Q	50(1970)+
生理	Q	45(1972)+
心理	Q	1(1973)+
寄贈	Q	1(1958)+
心理	M	39(1965)+
心理	M	63(1965)+
心理	BM	73(1966)+
		1(1964)—29(1972)
図書室	W	[1966-1968]—163(1969)+
図書室	M	220(1969)+
	Q	24(1968)—28(1972)
生活史	Q	7(1968)+
	Q	7(1969)—9(1971)
系統	Q	25(1976)+
社会	Q	30(1976)+
形態	3N	60(1968)+
サル施	BM	14(1972)+

- | | | | |
|----------|----------------|-----------|---|
| 1) W =週刊 | Q =季刊 | 4 N = 4 | 〃 |
| 3/M=旬刊 | A =年刊 | 5 N = 5 | 〃 |
| SM=月2回 | 2Bd =年2巻(冊数不詳) | 6 N = 6 | 〃 |
| M =月刊 | 2 N =年2回(不定期) | 8 N = 8 | 〃 |
| BM=隔月刊 | 3 N = 3 | 12 N = 12 | 〃 |
- 2) [] は欠号があることを示す。

霊長類研究所図書室利用規定

I. 開室時間と休室

- 開室時間
 平日：9時から17時まで。
 土曜日：9時から12時まで。
- 休室
 日曜日、国民の祝祭日、年末・年始は休室とする。
 その他の臨時休室は、その都度掲示する。

II. 閱 覧

- 閲覧者の資格
 - 本研究所の教職員・大学院生及び研修員。
 - 本研究所の共同利用研究員で閲覧者カードを提出するもの。
 - 本研究所教職員の紹介のあるもの。
- 閲覧
 - 閲覧者は図書室内で図書(単行本、雑誌、その他の資料)を自由に閲覧できる。

- 閲覧後の図書は必ずもとの場所にもどす。
- 書庫および閲覧室内は禁煙とする。

III. 貸出および返却

- Iの1・1)及び2)の該当者は、下記に従い図書を借用できる。すべての借用資料は、原則として所外に持出すことはできない。
 - 単行本
 - 単行本は1カ月間借用できる。
 - 借用時には、ブックカードおよび代本板用紙に必要事項を記入する。ブックカードは所定の箱に入れ、代本板用紙は代本板の背にそう入して、書架上の本のあった位置に置く。
 - 製本雑誌
 - 製本雑誌は3日間借用できる。
 - 借用方法は単行本に準じる。
 - 未製本雑誌
 - 未製本の雑誌は15時から翌朝10時までの間に限り借用できる。

- 2) 借用時には貸出カードに必要事項を記入する。
2. 参考図書その他禁帯出扱いの図書は貸出さない。
3. 借用中の資料は転貸してはならない。
4. 再手続きをすることにより貸出期限の延長ができる。ただし、他に借用希望者がある時は、そちらを優先する。
5. 借用後の図書は返却台に返却する。

Ⅳ. 総点検および長期貸出

1. 毎年1回図書の総点検を行なう。この時は、貸出期限内外を問わず、すべての図書を返却する。
2. 総点検期間中、原則として図書室は休室とする。
3. 図書委員会により研究室等への備えつけが認められた図書は、長期貸出扱いとする。長期貸出期間は1年で、長期貸出扱いの更新は総点検時に行なう。

Ⅴ. その他

1. 資料を粉失したり汚損した場合は、代本または相当の代金で補わなければならない。
2. 借用資料を期日までに返却しないものは、以後の貸出を一定期間停止されることがある。

資 料

研究所創立以来9年が経過し、その間、当研究所および所内研究者の保有する骨格標本等の資料も、充分とは言えないまでも蓄積されてきた。資料委員会は、それらの資料の実体を把握・整備して、所内研究者および共同利用研究者等による多角的能率的な利用システムを作することを目的とし、本年4月にアンケートによる調査を行った。結果を下記に示したが、本年度中に資料台帳を作製し、一層能率的な利用を計ることを予定している。

現生霊長類：

骨格標本	200点
頭骨標本	910点
ハク製標本	50点
液漬体躯標本	390点
液漬内臓標本	180点
写真資料	5,000点

現生哺乳類その他（霊長類を除く）：

骨格標本	190点
頭骨標本	2,170点
犬歯標本	400点
ハク製標本	330点
液漬標本	30点
寄生虫標本	30点

蝶類標本	500点
哺乳類化石：	
人類標本	70点
哺乳類（人類を除く）	1,100点
植物資料：	
腊葉標本	400点
植物標本	800点
人類生活資料：	
道具	20点

以上

5. 研 究 活 動

形態基礎研究部門

近藤四郎・岩本光雄
岡田守彦・渡辺 毅

研 究 概 要

- 1) 霊長類の姿勢およびロコモーションの比較生機構学的研究¹⁾

近藤四郎・岡田守彦・早川清治²⁾

機能形態学的観点から現生霊長類の locomotor adaptation を明らかにすることを目的として、ここ数年来、調教された数種のサル類の歩行運動の生機構学的特性をしらべている。本年度は、さらに歩行のメカニクスをより深く理解するために、サルの体型と歩容をモデル化し、運動学的データを入力とする計算機シミュレーションを行なった。これまでのところ、ヒト、チンパンジー、ニホンザルの二足歩行について結果が得られているが、シミュレーション出力データと実測による運動力学的データはよく一致しており、シミュレーションが歩行の生機構学的解析にきわめて有効であることがわかった（これらの結果の一部は共同研究者により第6回国際霊長類学会において発表の予定）。

- 2) 志賀高原生息ニホンザルの寒冷適応に関する研究³⁾

近藤四郎・岩本光雄

岡田守彦・渡辺 毅

昨年度の志賀A群の総合捕獲調査にひきつづいて50年7月に志賀C群の捕獲調査に参加し、生体計測、皮脂厚、X線、毛生量、寒冷血管反応などについてしらべた。今回は捕獲頭数が少なかったため、C群については重ねて捕獲調査が計画されている。

- 1) 石田英実（京大・理）・木村賛（帝京大・医）山崎信寿（慶応大・工・大学院生）との共同研究
- 2) 文部技官
- 3) 上信越ニホンザル総合調査（代表大沢済）の一環として行なわれた。